

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家 族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	竜門堂 グループホーム あったか荘
(ユニット名)	東ユニット
所在地 (県・市町村名)	佐賀県武雄市山内町大字三間坂甲13842番地12
記入者名 (管理者)	藤 崎 頼 子
記入日	平成 20 年 2 月 10 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(☐ 部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の方のボランティアをおおいに受け入れ、楽しいひと時を楽しんでもらい、時には桜の花見を行ったりしている。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ボランティアの受け入れ時は、全員で参加し楽しんでいただけるよう取り組み、ご家族にも参加の連絡をし、参加いただいている。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	地域の自治会等にも参加し、皆様への認知症という病気への理解を深めていただいている。	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	ご近所様への笑顔の挨拶を実行し、たまには立ち話をし、行事を荘内で行うときは、ご近所の子供さんとお母さんが一緒に楽しまれている。	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の自治会への加入、参加や公民館掃除にも行き、唱歌を歌う会へ数人ではあるが参加し楽しまれている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	職員の地域で独居老人や高齢者家族への昼食を手作りし提供されているが自主的に参加したりし暮らしを支え、楽しみを持って貰っている、		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員には常日頃より、あったか荘のありかた等を理解してもらえるよう話し合い、評価に対しての具体策を職員で話し合っている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の委員、ご家族様の意見が出た時は即対応出来ることは実行し、評価に対する取り組みなども説明している。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市職員の方との話す機会もあり認知症の理解をしていただけるよう利用者の方の生活の実状を話したりしている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	成年後見制度の研修に出席し、必要性は十分理解している。	○	家や土地はあるが、子供が無く、一人暮らしの方が入居されており、兄弟や市の担当者と話し合い今後の生活が不安無く過ごされる様支援していかなければならないと考えている。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過されることがないように注意を払い、防止に努めている	常に職員間での情報交換を図り、利用者の暴言・暴力に対し、なぜそうされるのかカンファレンスを行い個人に合わせたケアを考えている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居日にご家族様にグループホームでの生活を十分説明し、ご本人にも今日からここでの生活を送ってもらうことを説明をしている。又退去に関しては、ご本人が今後の生活が不安なく過ごせる様、配慮し、ご家族とも十分話し合っている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の不満等が合った場合はその都度解決していくよう心掛けている。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ご面会の時、施設長が日常生活ぶりや身体状況等を詳しく話している。健康上の問題がある時は電話で連絡し、急を要する時はお出でいただき詳しく説明している。金銭管理に関しては出納帳を提示し確認していただき、年度末に出納帳の写しと領収書を送付し、出納帳へ確認印を頂いている。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族がご面会ある時に意見や苦情をお持ちでないかお尋ねしている。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回のミーティングを行い、職員の意見や提案があった場合は、職員全員で話し合い、よりよい運営が出来るよう心掛けている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	職員数に関しては、十分な員数を勤務させ緊急時は十分対応できる様に配慮している。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	経営者に勤務移動は二人ぐらいに抑えてもらい、顔ぶれがあまり変わらないよう配慮してもらっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体での新人研修を行ったり、外部への研修へ参加しレポートを提出し自己研鑽に努めている。又、新人へは施設長や主任より介護の方法等を、個人ごとに合わせた対応の方法を指導している。		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同法人内での施設研修は新人研修の一環として行っているが、同業者との交流等は殆どなく勉強会も行っていない。	○	交流を深め今後の質の向上に努めていけるよう研修や見学に積極的に参加していきたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員のボーリング大会やミニバレー大会を行ったり、法人の忘年会を開催し、職員間の相互親睦を深めている。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者は勤務評価し、年1度の昇給や年2回の賞与に反映されている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	不安や困りごとは今なんであるのかご本人から入所時に聞き、不安感を解消するよう努めている。しかし、帰宅願望が強くある方の対応にもう少し配慮が必要であると思っている。	○	ご家族とも相談しながら対応していくよう心掛けていく。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用開始前に院長が説明しご家族の意見や疑問点や不安をお聴きし説明し納得、了解しての利用である。又、在宅からの相談の時は今困っている事、在宅生活していく上で不安な事など、担当ケアマネージャーと共によく聴き、不安なく生活が継続できる方法をご家族と考えて利用して頂いている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談あったときは、ケアマネジャーと共にご本人、ご家族の今の自宅での生活状況やご本人の認知症の症状等をよくお聴きし、ご利用が望ましいのか、他のサービスでも在宅生活が可能かの見極めている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ご本人は不安をもつてのご利用である為、職員もコミュニケーションを多く持ち、一独りにしないなど配慮し又、他の利用者様のなかで誰とでもやさしく話し掛けてくれる人と居場所を一緒にするなどの気配りをし、徐々にあったか荘での生活に慣れていかれるように心配りをしている。またそのような気配りをしながら慣れてもらっていることをご家族へ報告し安心して貰っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ご本人が出来る範囲の事は自分でして貰う介護に心掛けています。 生活歴を引きだしながら共感し、学び支えあっている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	あったか荘での生活状況をご面会時に報告し、楽しい時間を過ごされ、落ち着いた生活を送られていること等をお話し安心につなげている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	あったか荘での日常生活等を報告しながら、ご面会をゆっくりした気持ちで過ごしていただけるよう雰囲気を作りだし、ご家族であることを忘れられないよう支援している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅のご近所の方がご面会にお見えになった時は、ゆっくりお話して頂き何時でもお出でいただけるような雰囲気を作り、ご面会を歓迎している事が伝わるよう対応に心掛けています。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	仲の良い利用者様同士が同席できるよう配慮し、一人ひとりに気配りし、お話や歌が歌える雰囲気作りに努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院された場合などは病室を訪問し声をかけ、ご家族とお会いした時は病状等をお聴きし、不安や疑問が少しでも減少されるよう励ましの声かけをしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様の思いを大事にしつつ、穏やかな生活が送ってもらえるよう努めてはいるが、帰宅願望が強くある方の対応に苦慮している。	○	あったか荘での生活がその方にとって一番安心できる快適な暮らしなのかご家族ともう一度じっくりお話し合いしながらその方がその人らしく暮らしていけるよう考えていきたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人に生活歴をお聴きしたり、長期記憶障害のある方はご家族に入居前の暮らし振りをお聴きし、又ディサービスご利用状況等を聴くなど把握し努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一日の生活パターンを把握し、不穏症状が出現されるのはどうしてかを介護者が考え、どう対応していくかを話し合いながら、その方が有する力を発揮出来る場面作り」する様努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケア計画作成時、介護に対するご本人やご家族のご意向は必ずお聴きしているが、計画作成時は介護者が計画しご家族に説明し確認して頂いる。	○	介護保健事業所よりの指導があり、ご家族を交え意見等を出してもらい計画の中に反映させていきたい。又、主治医の意見や対応策があった場合はそのことを文章化し計画書に残すようにしていきたいと考えている。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	身体状況に変化あったときはご家族に相談、報告し現状に即した計画を立て、計画書に追加している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常生活の記録をし変化あった時はその都度記録として残し、介護者が状況を把握できるようにしている。又、介護計画見直し時にその事を生かせるように一ヵ月毎の評価もしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	外出・外泊に関しては健康状態がよければ可能とし、何時でもご家族が迎えにお出でのときは外出・外泊されている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域の民生委員様の訪問や地域の婦人会による踊りや歌を披露していただいたり、小学生のふれあい、保育園児の訪問など楽しみ、子供達とのふれあいを喜ばれている。又、消火訓練を行い消防士の方たちに入居の方々の身体状況の確認をして頂くなどの協力を頂きながら支援している。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	ご家族の意向で他のサービスを希望された時はケアマネジャーや他の事業所の相談員との話し合いを持ち、サービス利用が可能になるよう支援していく。	○	ご本人というよりご家族のご意向で、経済的な理由により、他のサービス(施設)を利用したいとの申し出があった時は、可能な限り施設利用が出来るよう支援していく。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	ご本人の身体状況や精神的状況を十分把握し、必要に応じて対応できるよう長期的なケアマネジメントし、居宅事業所や支援センターと連携している。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前の通院されていた病院へはご家族が通院介助されている。主治医は当法人の医師であるが、他の病院への受診内容を主治医へ報告している。毎月内科医の主治医に定期受診している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	院長や主治医との連携をとりながら、いつでも相談し定期的に受診し利用者が安心して治療できるよう支援している。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	かかりつけの医院の看護師とも顔なじみとなられ、受診時など気軽に声掛けし、健康状態の把握をされている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院先の医療機関と連絡や情報提供をし、退院後の指示を受けている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者様が高齢になられ、何時どのような事が起こることも限らない為、頻回に熱発され肺炎や気管支炎を発症された時など、主治医やご家族とも話し合っている。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	主治医やご家族とよく話し合い、重度化された利用者をどう支援していくか職員とも話し合いながら、入院されるまでの間を支援している。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	当ホームより施設へ転居される場合は、介護連絡表により細やかな情報を提供したり、異動先の相談員や担当者の方に、ご本人の生活状況を話し、異動先でご本人が安心して生活出来るよう配慮している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	○	個人の誇りやプライバシーを損ねない介護をめざし今後一層の努力をしていきます。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している		お酒の提供は敬老会やお正月の行事としておちよこにお出ししている。タバコを吸われる方はおられない おやつはホームよりサツマイモをふかしたり、懐かしいおやつを手作りして提供している。個人に合わせた量や種類を介護者が把握している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	昼間はトイレ誘導を基本とし、皆様トイレでの排泄である。夜間はポータブルトイレをベットのサイドへ設置し自分で排泄可能な方は見守りや介助で出来ている。また、排泄チェック表を利用している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	ご本人の意思により入浴していただき、入浴拒否があった場合は介護者が声かけを変えたり、時間をおいたりしている。ゆっくりと入浴できるよう時間制限等は行っていない。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	昼夜逆転の方は在宅時も夜間不眠であったとご家族より情報もあり無理に休んでもらわず、昼間横になってもらったりしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食後の後片付けは自分からしていただき、毎日歌が好きな方は、4～5人集まり歌を楽しまれ、ビーチボールのバレーをし適度の体操になっている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在金銭管理できる方がなく、出来そうな方に持ってもらっていると、どこかになおし込まれ誰かだ盗った、無くなったと訴えられる為、管理者が管理している。出かけられる時はその都度手渡ししている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	帰宅願望強い時などは、外を散歩したりドライブしたりしている。天気のよい暖かい日は戸外へ希望者は散歩されている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	ご本人やご家族様の希望を取り入れできる範囲で支援するようにしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙が書ける方には準備し、ご自宅への電話を希望される時は利用して頂きお話し出るよう支援している。また、ご家族様にも電話希望時はかけてあげる事を事前に話し合っている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	ご面会時は居心地よくお過ごしされるよう、お茶やおやつをお出しして、居室やディールームで過ごされている。また、常日頃より来客者に対しての接遇面については指導して居る。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関しては法人全体で0作戦に取り組み、常に見守りを行いケアしている。夜間、立位不安定な方にセンサーを設置しているが、ご本人の行動を制限するものではない。(センサー設置のことは事前にご家族へ説明し了解してもらっている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関はタッチセンサーを設置しているが、ホールの直ぐ傍に遮断機の無い踏み切りがあり、事故防止のためであり、自由を阻害する者ではないと思っている。また、ご家族には入所時よく説明し、了解いただいている。居室には通常かぎは掛けないが、中には人の居室には入られ、人の者を持ち出される方が居り、本人の希望で施錠している		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	行動制限は行わず、常に見守り所在確認を行ないながら、安全な生活が維持できるよう配慮している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	職員は利用者の物品管理能力を把握し、個人にあわせた対応をしている。又、包丁やはさみなど注意が必要なものは本数を確認し収納している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	一人ひとりの身体状況や嚥下の状態など把握しケアにあたっている食事時も見守り必要な方の横で摂り、むせなどないよう見守っている。散歩には必ず付き添いし見守っている。防火訓練も年二回行い火災無きよう注意している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	利用者の怪我や急変時の対応はマニュアル化し、ミーティングなど確認している。又、消防署主催の救急時の対応の研修や法人での救急時の対応の研修に参加し、実際人形を使つての訓練をしてし初期対応は出来ている。急変時は医師に連絡し指示を受けている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	自治会等に出席し、ホームの現状を話し協力をお願いしている。 防火訓練を行い避難方法を把握し、災害等の時スムーズに非難させることが出来るようにしている。が、実際どこまで避難させることが出来るのか全職員が常日頃考えていなければならないことである。	○	災害時に利用者の精神的なダメージを避けるため、全員安全に避難させる訓練を繰り返し行っていく。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	ご本人の身体状況や精神状態と現在の生活状況をあわせて説明し、ふらつきのある方のリスクのたかさ、嚥下の状態の悪い方のリスクのたかさなどをミーティング時に職員で話し合い日頃の対応に活かすようにしている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日、健康チェックを行い、発熱時は主治医に受診し、指示を貰っている。又、検温時顔色・体調の観察、ご本人にどうも無いかの確認を行っている。異常あった時は受診し医師の指示を貰っている。 異常時の状態など詳しく個人記録に記載し、夜勤者への申し送りも確実にしている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理は介護者が行っている。誤薬がしないよう、介護者二人で確認しながら与薬している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便のコントロールは食事、水分量、運動のの声かけにより行っている。又、便秘症の方は医師と相談し、緩下剤や座薬でコントロールを行っている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後口腔ケアの声かけをし、洗面所まで誘導し自力で出来る方の見守り、出来ない方は介助で行っている。拒否されるときは、時間を置くなど状況に応じ支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	健康状態を考慮し、糖尿食、潰瘍食、腎食を提供している。ご本人の摂取量に応じ量を加減している。体調不良により食欲低下時は記録するなどの支援を行っている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染委員会により感染症対策マニュアルがあり、研修や勉強会があり理解している。対応は医師の指導・指示のもとで行っている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理用具は天気の良い日は天日干しし、乾燥した布巾で拭き収納し、衛生管理を徹底している。食材は長期間冷蔵庫に保存して置かない心掛けている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関先にはプランターに花を植え家庭的な雰囲気づくりをしている。敷地内の一角に畑があり野菜を作り収穫したときは食材として利用している。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	台所は対面式で心地よい包丁の音が聞こえ、玄関からは訪問者があればチャイムがなり生活緩があり、ディルームからは鉄道があり電車が通るのが見え、外の草花も四季折々の花を咲かせ楽しませられている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リクライニングチェアや長椅子・ソファを置き、気のあった方が座り唄ったり、お話されゆったりした生活を送られている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には自宅で使用されていた鏡台など持ってこれられ自分の部屋らしくされ、居心地よく過ごされている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気には注意し、掃除の時には窓を開けるなど配慮している。 冷暖房は利用者様に合わせた温度調節をし天気の良い日は戸を開け外気を入れるなど配慮をしている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーであり、手すりも要所要所に設置し、安全に歩行できたり入浴できるよう配慮している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	理解力低下のある方でも、何かは理解できることを見極め、出来られる事への支援を行っている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ホームの外周りを散歩するには調度よい距離であり、散歩を楽しまれる。 天気の良い日はベランダで日光浴をしながら、唄ったり、お茶を飲まれたりと楽しまれている。		

V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	☐	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	☐	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	☐	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	☐	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	☐	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	☐	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	☐	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	☐	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

ご本人にあった介護に取り組み、ご家族が安心して利用できるような施設であるよう支援している。